Z-KAI Group

2026 年 11 月 12 日

11 月 23 日は勤労感謝の日！小中高生の家庭の職業観に関する意識調査

子には“得意”を生かせる仕事に　技術に代わられない点も重視

将来就きたい職業がある高校生 8 割超が「努力していることがある」

株式会社増進会ホールディングス（Z 会グループ）のグループ会社、株式会社栄光（本社：東京都千代田区　代表取締役社長：下田勝昭）が運営する進学塾・栄光ゼミナールは、2026 年 9 月 5 日（土）～9 月 15 日（火）に、「小中高生の家庭の職業観に関する意識調査」を実施し、小学 1 年生～高校 3 年生の子どもを持つ保護者 2665 人の有効回答が得られました。

■子どもと将来の職業について話したことがある保護者は 9 割超、話す機会は「日常会話」と「進学・進路選択」
■将来就きたい職業がある高校生の 86.7%が 「その職業に就くために、取り組んでいることや努力していることがある」
■保護者自身の職業と子どもの将来の職業　どちらも「好きなこと・得意なこと・資格が生かせる」ことを重視
**　子どもの将来の職業は「生成 AI やテクノロジーなどの進歩に取って代わられない」ことも気にかける傾向に**
■子どもの生成 AI の使用経験は増加傾向に　使用経験がある高校生の 8 割超が「学習・勉強」でも活用
■保護者の 9 割超 「生成 AI が子どもの学習や勉強に役立っている」

栄光ゼミナール調べ

＜調査概要＞

調査対象：栄光の教室に通う小学 1 年生～高校 3 年生の子どもを持つ保護者

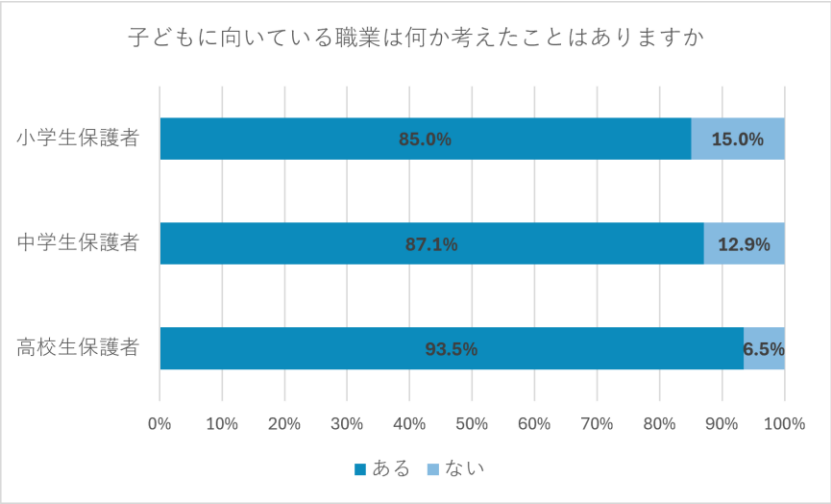
調査方法：インターネット調査

調査期間：2026 年 9 月 5 日（土）～9 月 15 日（火）

回答者数：2665 人（うち、小学生保護者 1337 人、中学生保護者 899 人、高校生保護者 429 人）

子どもに向いている職業は何か考えたことはありますか。

n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、単一回答方式



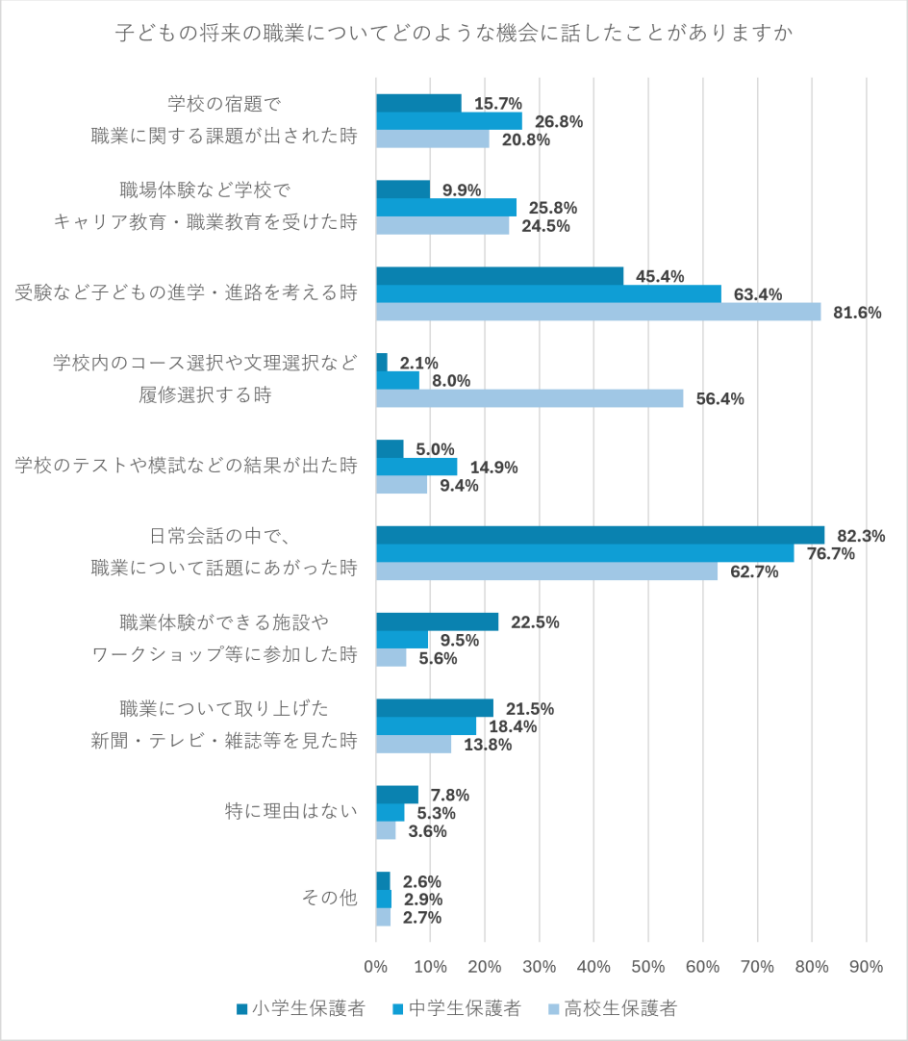
小学 1 年生～高校 3 年生の子どもをもつ保護者に、子どもに向いている職業は何か考えたことがあるかを聞いたところ、小学生保護者の 85.0%、中学生保護者の 87.1%、高校生保護者の 93.5%が「ある」と回答した。「ない」と答えた保護者にその理由を聞いたところ、「子ども自身の将来のことなので、本人に任せているから」が最も多く、また「子どもの適性がわからないから」「子どもが大きくなった時にどのような職業があるかわからないから」という回答もみられた。

子どもと、子どもの将来の職業について話したことがありますか。

n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、単一回答方式

どのような機会に話したことがありますか。

n=2500（小学生保護者 1249、中学生保護者 838、高校生保護者 413）、総回答数 5954、複数回答方式（あてはまるものすべて）



保護者に、子どもの将来の職業について子どもと話したことがあるかを聞いたところ、小学生保護者の 93.4%、中学生保護者の 93.2%、高校生保護者の 96.3%が「話したことがある」と回答した。

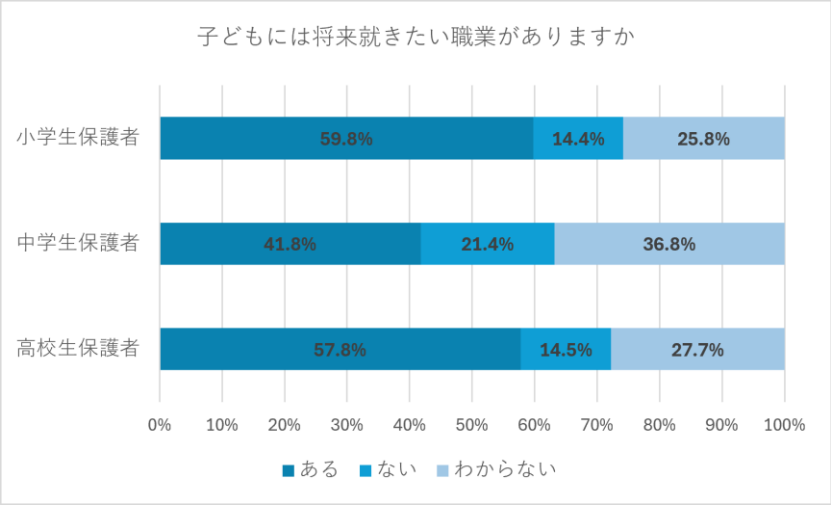
次に、「話したことがある」と回答した保護者に、どのような機会に子どもと話したことがあるかを聞いた。小学生保護者・中学生保護者では「日常会話の中で、職業について話題にあがった時」が最も多く、それぞれ 82.3%と 76.7%だった。高校生保護者は「受験など子どもの進学・進路を考える時」が最も高く、81.6%だった。また、高校生では、「学校内のコース選択や文理選択など履修選択をする時」も多く、56.4%だった。

子どもには将来就きたい職業がありますか。

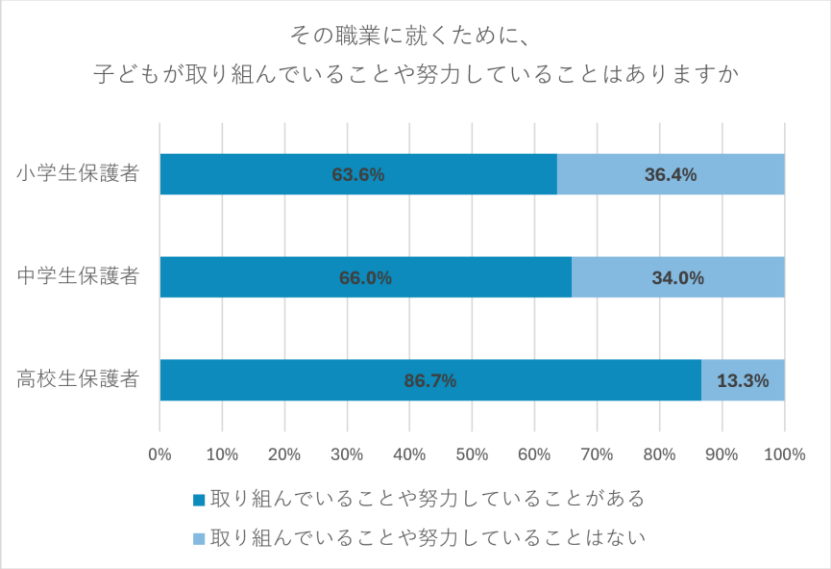
n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、単一回答方式

その職業に就くために、子どもが取り組んでいることや努力していることはありますか。

n=1424（小学生保護者 800、中学生保護者 376、高校生保護者 248）、単一回答方式



保護者に、子どもには将来就きたい職業があるか聞いたところ、小学生保護者の 59.8%、中学生保護者の 41.8%、高校生保護者の 57.8%が「ある」と回答した。特に中学生保護者では、子どもに将来就きたい職業が「ない」、もしくは「わからない」と回答した割合が、小学生保護者・高校生保護者よりも高かった。



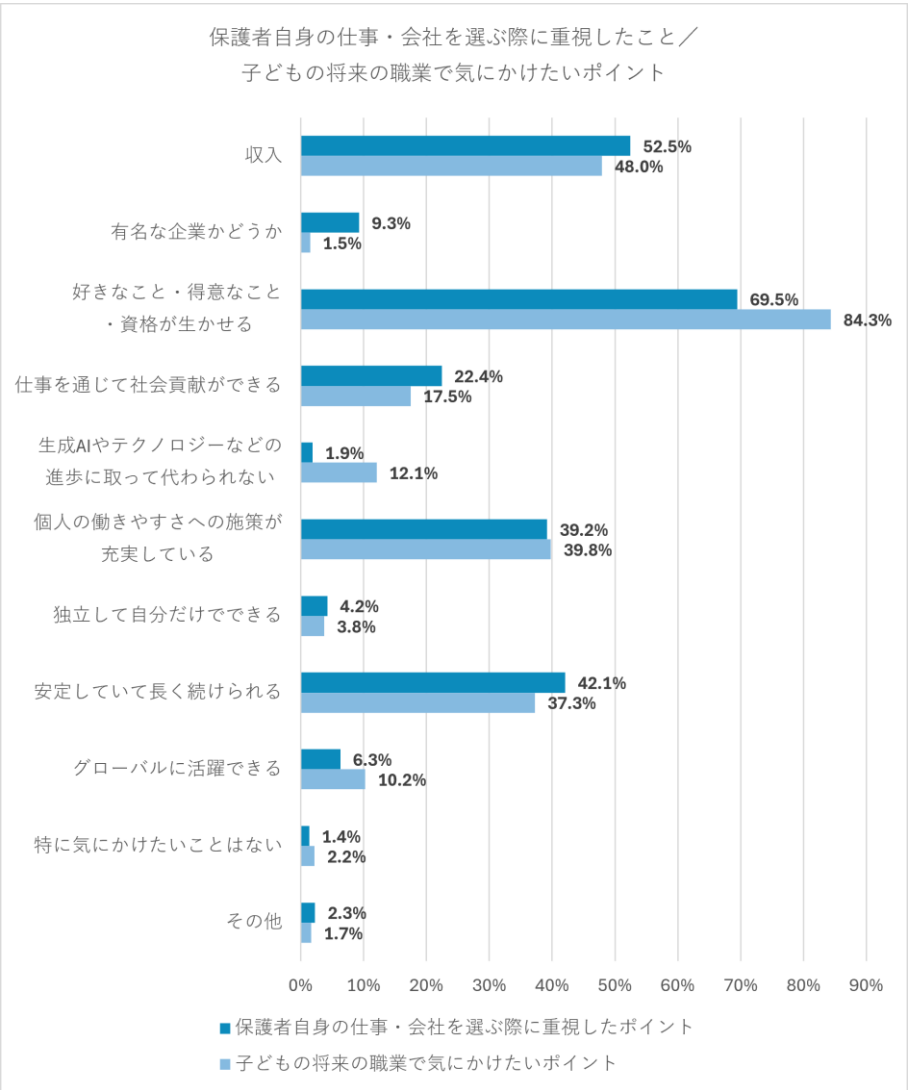
子どもには将来就きたい職業が「ある」と回答した保護者に、その職業に就くために、子どもが取り組んでいることや努力していることがあるかを聞いた。小学生保護者の63.6%、中学生保護者の66.0%、高校生保護者の86.7%が「取り組んでいることや努力していることがある」と回答した。将来就きたい職業がある子どもは、その目標に向かって努力する傾向が大きいことがわかった。

保護者自身が、今までに就いたことがある仕事・会社を選ぶ際に重視したポイントは何ですか。

n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、総回答数 6688、複数回答方式（最大 3 つ）

将来、子どもが就く職業について、保護者として気にかけたいポイントは何ですか。

n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、総回答数 6884、複数回答方式（最大 3 つ）



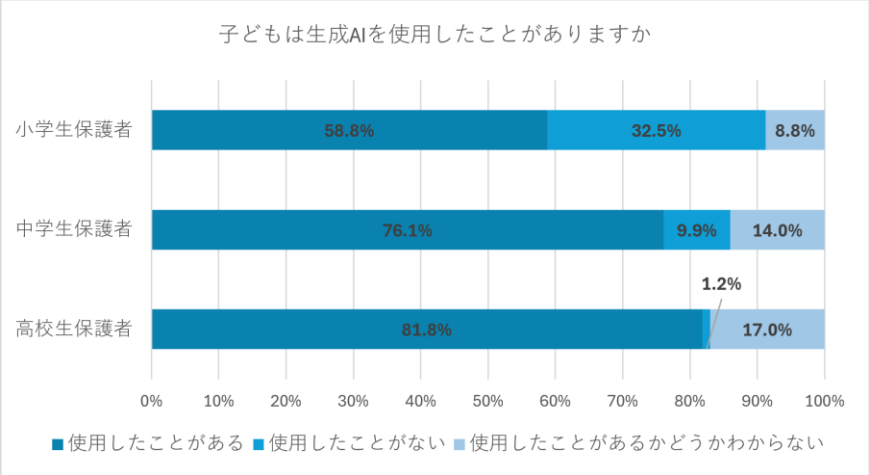
「保護者自身が今までに就いたことがある仕事・会社を選ぶ際に重視したポイント」および「将来子どもが就く職業について、保護者として気にかけたいポイント」を聞いた。

回答が最も多かったポイントは、保護者自身の職業と子どもの将来の職業のどちらも、「好きなこと・得意なこと・資格が生かせる」で、保護者自身の職業では 69.5%、子どもの将来の職業では 84.3%だった。次いで、割合が高かったのは「収入」で、保護者自身の職業・子どもの将来の職業のどちらも約半数にのぼった。そのほか、「個人の働きやすさへの施策・取り組みが充実している」「安定していて長く続けられる」も割合が高い傾向がみられた。

保護者自身の職業選択の際に重視した点と、子どもの将来の職業で気にかけたい点を比較すると、子どもの将来の職業では「生成 AI やテクノロジーなどの進歩に取って代わられない」をより気にかける保護者が多いこともわかった。2025 年調査より 4.1 ポイント上昇し、12.1%であった。

子どもは、生成 AI を使用したことがありますか。

n=2665（小学生保護者 1337、中学生保護者 899、高校生保護者 429）、単一回答方式



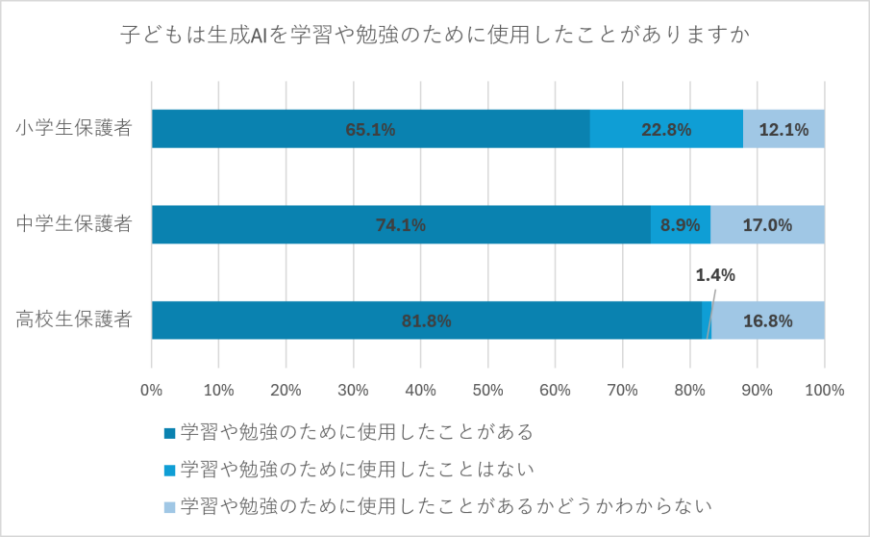
子どもの将来の職業選択に関連して、子どもの生成 AI の活用の現状について聞いた。子どもが生成 AI を使用したことがあるかについて、小学生保護者の 58.8%、中学生保護者の 76.1%、高校生保護者の 81.8%が「使用したことがある」と回答した。2025 年調査において、「使用したことがある」と回答した割合は、小学生保護者 35.1%、中学生保護者 50.3%、高校生保護者 60.7%であり、いずれも 20 ポイント以上上昇した。

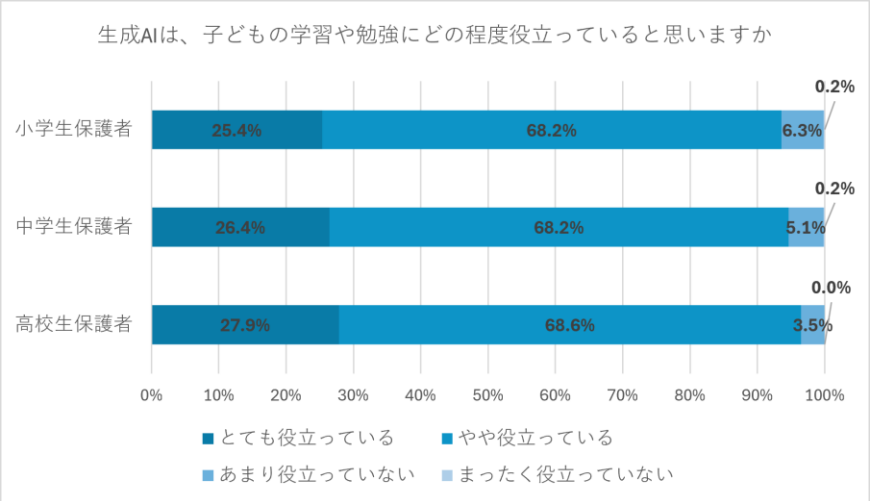
子どもは生成 AI を学習や勉強のために使用したことがありますか。

n=1821（小学生保護者 786、中学生保護者 684、高校生保護者 351）、単一回答方式

生成 AI は、子どもの学習や勉強にどの程度役立っていると思いますか。

n=1306（小学生保護者 512、中学生保護者 507、高校生保護者 287）、単一回答方式





子どもが「生成 AI を使用したことがある」と回答した保護者に、子どもが生成 AI を学習や勉強のために使用したことがあるかを聞いた。小学生保護者の 65.1%、中学生保護者の 74.1%、高校生保護者の 81.8%が、子どもが「学習や勉強のために使用したことがある」と回答した。

次に、「学習や勉強のために使用したことがある」と回答した保護者に、どの程度役立っていると思うかを聞いた。小学生保護者・中学生保護者・高校生保護者とも、9 割以上が「とても役立っている」「やや役立っている」と回答した。

子どもが学習や勉強で生成 AI を活用している場合、保護者の多くもその有用性を実感していることがうかがえる。

お子さまの職業観・勤労観を育むため、ご家庭で取り組まれていることがあれば教えてください。

自由記述方式

・まだ知らない仕事の中になりたい仕事があるかもしれないので、色んな仕事があることを知ってもらうよう話している。（小学 3 年生保護者）

・なるべく仕事の愚痴を子どもの前で言わないように心がけています。働くことをマイナスに感じてほしくないので。（小学 4 年生保護者）

・子どもの好きなことは何かを話し合う機会を多く作り、その際に好きなことに繋がる職業にはどんな物があるか話し合う。また、好きな分野の本をたくさん読んでもらっている。（小学 5 年生保護者）

・世の中の変わった職業の人や、多くの人が普段は気が付かないのだけど日常生活に欠かせない役割の職業の人などが取り上げられているテレビ番組を見た時に、気づきを促すようなコメントをするようにしている。目に見える仕事やメジャーな仕事だけではなく、たくさんの職業を幅広く知っておいて損はしないと思っている。（小学 6 年生保護者）

・資格を取って飼育員になりたいと言っているので、動物園や昆虫採集、潮干狩り、磯遊びなどに積極的に連れて行き、さらに興味がもてるようにしている。（中学 1 年生保護者）

・特に意識して取り組んでいるわけではありませんが、歴史好きな子のため、昔あった職業、今ある職業、将来あるかもしれない、もしくはなくなるかもしれない職業の話はたびたびします。（中学 1 年生保護者）

・親が仕事を楽しみ、やりがいを持って懸命に取り組む姿をみせること。（中学 2 年生保護者）

・子どもが希望する職業について調べて、今のうちからその職業に就くための大学資料を取り寄せている。またその職に就いている友人知人にインタビューしている。（中学 2 年生保護者）

・親が押し付けることなく、子ども自身がやってみたいことや、興味のあることから将来の仕事へ繋がる何かを見つけられるように寄り添うようにしています。（中学 3 年生保護者）

・身近な例として親の仕事や会社の業務内容がどういうものか、どんな社会貢献になっているのか、を時々話すようにしています。（中学 3 年生保護者）

・仕事などで楽しかったことや少し大変だったことなど、どちらのことも積極的に話すようにしています。（高校 2 年生保護者）

・特に何かに取り組んでいるわけではないのですが、子どもから勉強や夢や職業についての話があった時には、手を止めて会話に集中するように心掛けています。（高校 2 年生保護者）

・好きなこと、得意なこと、興味があることがあれば、金銭面含めて極力バックアップしてあげたいと思う。リアルな体験をさせ、感性と経験を積むことを勧める。（高校 3 年生保護者）

◆小学生からのキャリアをサポートする『栄光キャリアルート』

https://career-route.eikoh.co.jp/



EIKOH CareerRoute
子供たちの将来の夢を応援します

株式会社栄光が運営する『栄光キャリアルート』は、小学生からのキャリア形成を支援するサービスです。子どもたちが自分の将来をデザインし、夢を叶えられるように、下記のサービスを通じて、一人ひとりに寄り添ったサポートをしています。

World Trip：楽しみながら、さまざまな場面の身近な英語表現に触れることで、実際に使える英語を身につける体験型プログラムを提供しています。

ツクル∞ジブン：教室や教科書では学べない「本物・本当」の「めったにできない」体験に「チャレンジ」することで、これからの未来を自分で考え、自分で決める「力」を育む、未来の自分探し講座です。

国内留学：国内にいながらにして、海外を身近に感じることができるプログラム。英語による心理的な壁を突破し、瞬間英語発話をトレーニングすることで、英語コミュニケーションスキルを身につけます。

なるほど算数・数学×論理的思考力アップ：いろいろな算数・数学に触れて、ひらめき体験。考えることが楽しくなる！算数・数学を楽しんで論理的思考力を身につける講座です。発見やひらめきを体験することで、広がる世界があります。

会社概要

中学受験、高校受験対策の進学塾「栄光ゼミナール」や個別指導で目標達成へ導く「栄光の個別ビザビ」、大学受験対策塾「大学受験ナビオ」等を、首都圏を中心に展開し、国内屈指の進学塾として多くの塾生をお預かりしています。さらに、オンライン進学塾「EIKOH LiNKSTUDY」をはじめ、幼稚園・小学校受験対策の「アイ・シー・イー幼児教室」、最難関中学受験対策の「Ｚ会エクタス栄光ゼミナール」、公立中高一貫校受検対策の「E-style Produced by 栄光ゼミナール」など、多様な学習ニーズに応えるブランド展開により、幼稚園受験から大学受験まで、専門性の高い指導を提供しています。生徒の学ぶ意欲を引き出し、自ら学ぶ姿勢を育てることで、志望校合格へ導き、生徒・保護者の期待に全力で応えていきます。

本社：　東京都千代田区富士見二丁目 11 番 11 号

代表：　代表取締役社長　下田勝昭

設立：　1980 年 7 月

本件に関するお問い合わせ

株式会社Ｚ会ホールディングス　広報　渡辺・大竹

電話：03-5275-1685　メールアドレス：proffice@zkai-hd.co.jp